

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 東棟)

事業所番号	0292400017		
法人名	大東株式会社		
事業所名	グループホーム 鶴泊の家		
所在地	青森県北津軽郡鶴田町大字鶴泊字前田99-1		
自己評価作成日	平成22年8月20日	評価結果市町村受理日	平成23年4月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・ホーム敷地内には、馴染み深い温泉があり、いつでも利用者の希望時に利用して頂いている。
- ・足湯・あずまやは地域に開放しており、利用者地域の方と一緒に利用し、交流が持たれている。
- ・月1度の合同レクを実施、その他本人の気分や天気の良い日は、ドライブ・買い物等出掛けるよう働きかけている。
- ・全職員が県内外の研修に参加し、全職員のレベルアップを図り、自立支援の実践に向け日々取り組んでいる。
- ・排泄・浮腫・入浴委員を構成し、月1回の会議内容を全職員に報告・確認し、意見交換しながら、ケアに取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年1月20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者及び職員は地域密着型サービスを常に意識したケアに努めている。特に施設内にある足湯は地域の人たちとの交流の場所となっており、足湯を通じて地域とのコミュニケーションや交流が図られている。また、グループホーム内の共用スペースであるホールは明るく、広々としている。掘りこたつのある落ち着いた和室も兼ね備えており、利用者が思い思いに過ごせる空間となっている他、ホーム内のトイレ、洗面台、浴室等には利用者が安全、かつ使いやすいような工夫が施されている。利用者が毎日いつでも入れるというヒノキ風呂や露天風呂等は温泉であることも、このホームの特徴である。何より、利用者一人ひとりに接する職員の対応もやさしく、コミュニケーションがよくとれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自 己 部	項 目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時より「共に暮らし生きることへの支援」を理念に掲げ、人と人とのつながりを大切にする支援に努め一人の住民として、職員や地域の方々とのふれあいを大切に暮らせるよう支援している。	管理者及び職員は地域密着型サービスを常に意識したケアに努めている。事業所では、「共に暮らし、生きる事への支援」という理念を掲げており、住み慣れた地域で一人ひとりがより良く生きることを目指し、支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域便りも回覧している。町の運動会や祭り、地域の法要・草刈・泥上げ等にも積極的に参加している。	施設の外には足湯の設備があり、誰でも利用できることから、足湯を通じて近隣の方々とは日常的にも交流があり、野菜や魚のおすそ分けを頂く等、地域との関係がとれている。また、町内の運動会や納涼祭、側溝の清掃等にも参加し、地域の人々と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	納涼祭や地域活動参加を通して認知症の人への理解を求めたり、2ヶ月に1回発行している地域便り「共に生きるための架け橋」により各所に掲示し、認知症への周知を図っている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議では、行政や社協・家族・地域の方に参加して頂き、サービスについての意見交換やアドバイスを、また、研修報告等も行っている。	2ヶ月に1回のペースで運営推進会議を開催している。委員の出席状況も良く、ホームや利用者の状況はもちろん、感染症の発生や骨粗しょう症、薬の知識等についても説明し、意見を引き出し、サービス向上につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加や、利用者の重度化や認知症の症状などについて、助言や理解を頂いている。また、施設運営に関して、日頃から相談し協力を得ている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が参加している。また、2ヶ月に1回広報紙を作成し、役場にも配布している。日頃から、困った事があればいつでも協力してくれる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>身体拘束についての内部研修を行い全職員に周知し、身体拘束を行わない方針のケアに取り組んでいる。夜間の防犯対策による施錠以外は、開放し利用者が自由に出入りしている。</p>	<p>管理者及び職員は内部研修及び外部研修に参加し、身体拘束の内容や弊害について理解している。部屋や玄関に施錠を行わず、拘束は行わないという姿勢で日々のケアを提供している。また、日頃から外出傾向のある利用者には、さりげなく見守りをしており、外出を察知した際は付き添い、外を歩く等して見守っている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待について勉強会や研修に参加し、全職員に周知している。入浴時、身体観察による紫斑確認等にも配慮している。また、話し合いながら、職員側のストレス軽減も図っている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している</p>	<p>外部研修に参加し、権利擁護・成年後見制度について学習し、全職員が理解と活用に努めているが、まだ十分とはいえない。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時には、家族からの意見を伺いながら、十分な説明(リスク・医療・緊急時)をしている。入所後も随時、質問の受付・説明・相談に応じている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、ご家族へのお知らせ等によるご意見欄を送付して意見を伺っている。また、随時、電話受付の対応も行っている。意見に対しては、職員間で対応・検討し、反映に努めている。</p>	<p>日々のケアの中で利用者の表情や会話から、意見を引き出すようにしている。意見等を上手に出すことのできない利用者に対しては、日々の言動などにも注意して不満や意見を察するようにしている。また、家族からは面会時に意見や苦情を引き出せるような雰囲気を作り、に努めている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議・各委員会・職員会議だけではなく随時職員が意見を提案出来る環境が作られている。	職員会議やサービス担当者会議で職員の意見等を良く聞き、出された意見等は随時運営に反映されている。職員の異動は極力少なく、異動があった場合には利用者にも与える影響が少なくなるよう十分配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	前もって、職員個々の休日希望を受け入れ、人員確保が出来るよう、ローテーションを組んでいる。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内・外部研修に積極的に参加し、レベルアップに取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	全国・県グループホーム協会に加入し、積極的に研修に参加し、意見交換しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。他施設からの見学の受け入れや足湯を開放していることで、いつでも交流出来る環境にある。			
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前、本人・家族の相談を伺い、不安や要望等、話が出来た場を設け信頼関係の構築に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	不安や要望を汲み取りながら、信頼関係の構築に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査・入所時の聞き取り、サービス利用状況を確認し、相談に応じている。初期対応を見極め、必要な支援検討に対応している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者への一方的な関係でなく、出来ることはやりたいと感じられるような環境を相互でできるように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人や家族が、喜怒哀楽を共感し、共に支え合えるような関係作りに努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院や知人との継続的なつながりが、保てるように支援している。	利用者の馴染みの場所や連絡先を、把握している。本人がこれまで大切にしてきた知人等への手紙、年賀状、電話等については、職員が手伝いをしながら交流を支援している。また、お墓参り等、できるだけ利用者の希望に沿うよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の人間関係や一人ひとりの価値観・心身の状態を考慮し、関わり合う場づくり・支え合えるような支援をしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了（入院等）しても、ご家族の相談を受ける等、出来る限り対応している。			

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中から、本人の言葉や態度・表情により、意向を把握し、対応している。	職員は日々のケアから、利用者の思いや希望を把握し、細かく観察をするよう努めている。また、職員間の情報交換を徹底すると共に、必要に応じて、家族から情報収集している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人や家族から、これまでの生活状況の聞き取りをしているが、入所後も新しい気づきが見られた際には随時ケース記録し、全職員が把握出来るように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った生活リズムに対応している。また場合によっては、その日に合わせた休養が出来るように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成・モニタリングを行い、一人ひとりの情報報告や相談・医療等について本人の現在を考えながら、作成している。また、介護計画作成後は、家族へ確認していただき同意を得ている。	担当者の観察記録により、利用者の状況を把握し、全職員による気づきや家族からの意見を十分に取り入れた介護計画を作成している。また、利用者、家族の希望や身体状況に変化があった時など必要があれば随時見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイル作成、ケース記録として日々の様子・身体状況・水分・排泄・通院状況等職員が把握出来るようにしている。毎日の申し送りや職員会議・カンファレンスで相談する他、本人や家族との話し合いが持たれている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族と相談しながら、要望に応じて通院や送迎等、必要な支援に対応している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域との協力態勢をとっており、避難訓練時は、消防署に依頼し、指導を受けている。</p>			
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入所前からのかかりつけ医を継続し、受診結果については、電話や「お知らせ」にて報告している。本人・家族の希望により、転院や家族も受診同行して頂き、医師・本人・家族・職員の連携が図られている。</p>	<p>これまでの受診状況を把握し、希望する医療機関を受診できるようになっている。受診状況については利用者一人ひとり記録に残し、必要に応じて、医療機関や家族も含めての情報交換をし、共有が図られている。</p>		
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日の健康管理・状態変化に対応できるよう24時間看護体制が整えられており、随時連絡・指示を受けられるようになっている。</p>			
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は、毎日見舞いに行き、本人の様子を観察する他、家族や医師・看護師との情報交換を怠らないようにしている。(洗濯物はホームで行っている)退院後の対応が出来るよう努めている。</p>			
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末ケアの医師の確保は出来ていないが、身体的リスクが予想された場合は、家族へ連絡し、対応を相談しながら、医療関係者と支援に取り組んでいる。また、終末期の対応方針について定めている。</p>	<p>重度化の対応指針を作成し事業所としての方針を明確にしている。重度化した場合に備えて、家族やかかりつけ医とも話し合い、意思統一を図り、変化に対応できるようにしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が、消防署において救急法講習を受講しており、急変や事故発生に備えている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	月1回の避難訓練を行い、年2回の夜間想定も行っている。消防署や地域の方の指導訓練も行われており、地域連絡網を作成し、協力を得ている。	年2回、夜間・日中を想定した消防訓練を春・秋に行っている。また、災害時には地域連絡網により地域の関係者が駆けつけてくれる体制がとれている。持ち出しやすいように飲料水、お米のお菓子、缶詰、毛布等を入れた手の付いた大きなビニールバッグを用意し、一定の場所に備えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護については、内部研修を行い、コミュニケーション講習を開催した他、ミーティング等で話し合い、人格尊重とプライバシーの確保に努めている。	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮し、日頃のケアでは利用者の言動を拒否しないようにしている。トイレ時の失敗時には、トイレにある小窓から下着を入れるなど、羞恥心に配慮したケア心がけている。また、職員は守秘義務や個人情報の取り扱い等十分配慮して業務をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	適切な対応・声かけが出来るよう支援体制を整え、本人が自己決定をしたり、希望と思われる生活が出来るよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の希望を優先し、有意義に過ごして頂けるペースを理解し、対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの好みの美容院に行ったり、和服も二部式に縫い直したり等、工夫したおしゃれを楽しんでいる。季節に合った服装を選べるように配慮している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は個々の好みを一覧にし、把握している。調理や盛り付けは一緒に行い、苦手な場合には代替食を提供するなどして、同じテーブルで楽しく食事している。	食事委員会があり、献立は職員が利用者の嗜好に配慮し、作成している。また、利用者のできる範囲内で、調理の下ごしらえから後片付けなど職員と一緒にしている。職員は利用者の食べこぼしなどさりげなくサポートし、会話を楽しみながら食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考慮した食事を提供しているが、食欲減退や食事制限等身体的介護が必要な方については水分チェック表を活用している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、本人の力に応じ支援し、一人で出来ない方にも介助しながら、清潔保持に取り組んでいる。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	おむつは使用せず、個々の排泄表を活用し、排泄パターンを把握しながらトイレ誘導し、トイレで排泄出来る様に働きかけている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導により、おむつを使用している利用者はいない。また、排泄委員会により話し合いが行われ、自立した排泄に努めている他、羞恥心やプライバシーにも配慮した支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	スムーズな排泄へつなげられるように朝食時に生ジュースを提供したり、運動等をしている。排泄委員会では予防や対策について話し合い、自然排便につながるよう取り組んでいる。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	温泉棟・足湯が有るため、毎日入浴出来る環境が整っている。利用者の体調や要望に合わせてながら、気持ち良く入浴して頂けるように支援している。	入浴は希望により毎日入浴することができ、好みの時間に入浴できるよう対応している。また、希望により同性介助を行い、利用者の心理的負担を軽減するなどの配慮をしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	足湯や足浴・散歩等、日中の活動を増やし、個々の体調に合わせ、ゆったり過ごせるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の内服薬の目的や副作用等について、職員間で把握している。薬の変更時はケース記録に記載し、処方内容を確認し、症状の気づきに努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は日頃から出来ること・意欲が湧くような活動を出来るように支援し、表情等、確認しながら取り組んでいる。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人的な外出希望に沿うように時間調整しながら、気分転換を図っている。また、記念日や特別日は家族と自由に外出している。	日々の利用者との会話の中から、利用者が行きたい場所の把握に努めており、希望により、買い物、散歩、小旅行などの支援を行っている。また、遠方に出掛けるときなどは、利用者の身体状況や精神状況に配慮する等、本人の負担にならないよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は、金銭を所持し、自由に買い物して頂き、確認が必要な方には、個人に合わせた方法を考慮し、出来るだけ所持できるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時、電話・手紙で自由に家族や知人と連絡を取り合っている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム前に野菜畑があり、環境作りをしている。ホール掲示板には、各月ごとに行事(写真)を貼ったり、季節感を感じて頂けるように装飾を掲示したり工夫している。	共用空間であるホールは明るく、広々としており、テーブルや椅子も家庭的なもので、掘ごたつのある畳敷きの和室でゆっくりと寛ぐことができる。また、トイレも同じ場所に2ヶ所配置され、障害に応じたトイレを選択できるようになっている他、姿勢保持のテーブルが取り付けられ、安全面や使いやすさ等にも配慮された構造になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	こあがりの和室・あずまや・テラス・足湯があり、一人になりたい時や仲良し同士でくつろげる場所として利用している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れたタンスや装飾等、本人らしい部屋作りがされ、落ち着いて過ごせるように配慮している。	入居前から使用していたなじみの物を持ってきてもらうよう家族に働きかけを行っている。居室には愛用の物やテレビなど持ち込んでいる。利用者一人ひとりの思い出深い品々が飾られており、利用者の意向を考えて思い思いに落ち着いて過ごせる空間作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能を活かした生活が送れるように水道の高さが2種類あり、立っても車椅子の方にも利用出来るよう工夫されている。トイレには自力で便座に座ることができるようにファンレストテーブルを設置する等、安全・自立への配慮に努めている。			